

大学基準協会 2024年度事例報告会

広島市立大学における内部質保証体制と 取り組み事例紹介

ひとと、まちと、これからも。広島市立大学



本日の内容

01 広島市立大学の概要

02 本学の内部質保証体制

03 本学の特色ある取り組み事例

04 今後に向けて

広島市立大学の概要

広島市立大学の概要

建学の基本理念

科学と芸術を軸に世界平和と地域に貢献する国際的な大学



科学・文化の発展と世界平和を希求する広島市の意志と、公立大学としての地域貢献への期待が込められている

所在地

広島県広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

設置研究科・学部

3学部

国際学部 情報科学部 芸術学部

4研究科

国際学研究科 情報科学研究科
芸術学研究科 平和学研究科

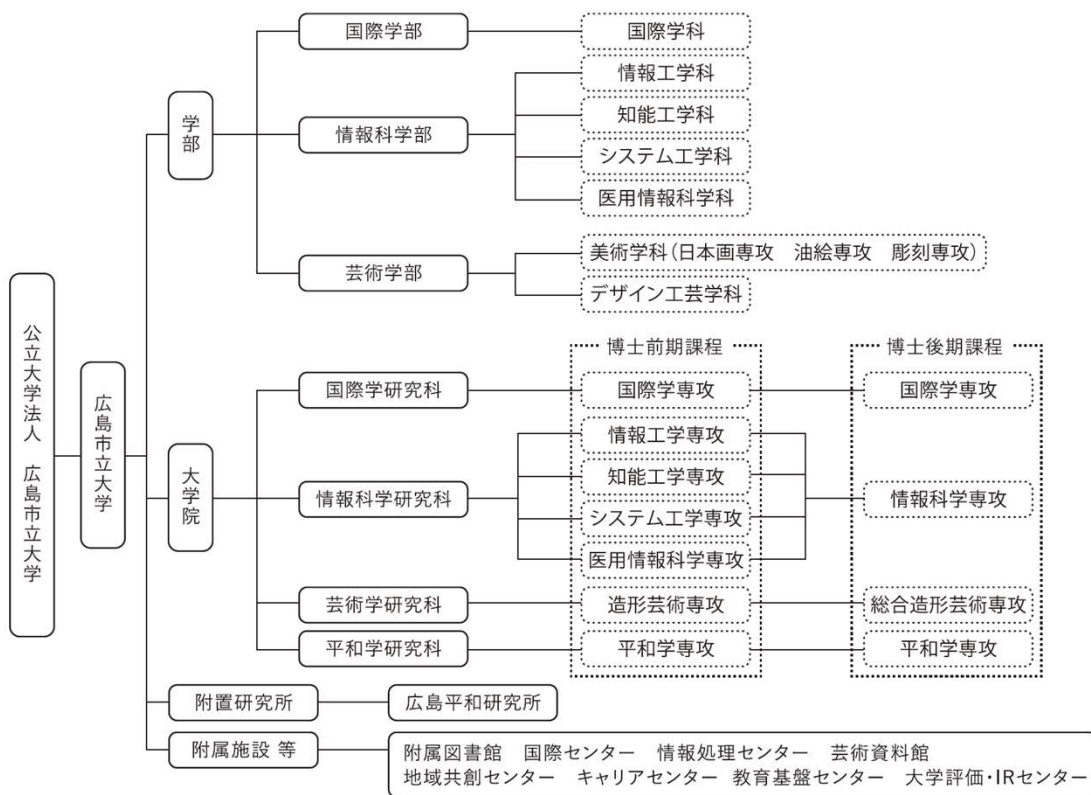
学生数(2024年5月1日時点)

学部学生1,749人 大学院学生309人

教職員数(2024年5月1日時点)

教員197人 職員88人

広島市立大学の概要（続き）



附置研究所

広島平和研究所

附属施設等

附属図書館、国際センター（語学センター、国際交流推進センター）、情報処理センター、
芸術資料館、地域共創センター、キャリアセンター、大学評価・IRセンター、教育基盤センター

沿革

1994年4月 開学

2010年4月 法人化

広島市立大学の組織図

大学の概要

<https://www.hiroshima-cu.ac.jp/aboutus>

本学の内部質保証体制

内部質保証体制の特徴

- 理事長・学長をトップとする内部質保証システム
 - 内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として「内部質保証委員会」（委員長は理事長・学長）を設置
- 中期計画と教育の推進に係る観点の全学的な点検・評価
 - 中期計画推進に係る「内部質保証」の手続きと教育に係る「内部質保証」の手続きを明確化し、この2つの質保証を両輪に据えた運用
- 継続的な教育の質保証と学生参画による教育の質保証
 - カリキュラムアセスメント（自己評価）、カリキュラムアセスメント・チェック（他者評価）、カリキュラム・コンサルティング（学生評価）の実施

内部質保証体制の整備

● 2016年 第2期機関別認証評価受審（大学基準協会）

自己点検・評価報告書(2016.3) から抜粋

法人化に伴い設定された中期目標で全学共通教育を改善する仕組みは整えられたが、本学は国際学部、情報科学部、芸術学部という分野の大きく異なる3学部で構成されており、学部専門教育にまで踏み込んだ「内部質保証」について、学部の垣根を越え全学の視点から見た統一的な方法を構築するには時間を要する。大学のガバナンスとも関わる問題であるが、全学として教育の内部質保証の充実にどう取り組んでいくかが今後の課題である。

● 2016年 第2期中期計画開始※

中期計画に反映

1. 教育、学生支援、大学運営等の質の向上を図るため、IRを導入
2. 自己点検及び評価の結果を大学運営の改善につなげる
3. 評価結果をウェブサイト等で積極的に公開
4. 内部質保証の強化

※期間は2016（平成28）年度~2021（令和3）年度

内部質保証体制の整備（続き）

- 2017年 内部質保証委員会設置(自己評価委員会から名称変更)
- 2019年 内部質保証・IR担当副理事、IR担当教員の配置
- 2020年 カリキュラムアセスメントの試行実施
- 2021年 内部質保証委員会専門委員会（教育の質保証）設置
- 2022年 第3期中期計画開始※ **内部質保証の充実（重点取組事項にかかげる）**

第2期中期計画
の取り組み

※期間は2022（令和4）年度～2027（令和9）年度

- 2022年7月 内部質保証の方針及び手続きの策定
- 2023年4月 大学評価・IRセンター、教育基盤センターの設置
- 2023年7月 理事長室・理事長室会議の設置
- 2024年4月 専門委員会を教育質保証委員会に改組

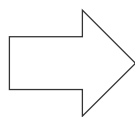
内部質保証に対する基本的な考え方

第3期中期計画の重点取組事項

戦略的かつ機動的な大学運営を行うため、理事長・学長のリーダーシップとIRに基づいた教学・経営マネジメントを推進し、内部質保証の充実を図る。また、DXの推進等により、学修支援及び学生支援の充実に取り組むとともに、業務の効率化を進める。

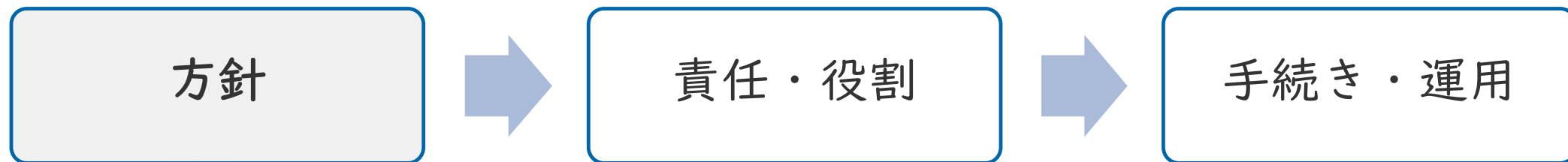
個別の取組項目（抜粋）

- ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）をはじめとする学修目標などのアウトカムを重視した教育の充実を図るため、教育の内部質保証体制を確立し、教育DXによる学修成果の可視化等による継続的な質保証に取り組む。
- 本学の建学の基本理念、教育研究上の目的、人材育成の目標や各種方針を実現するため、継続的な自己点検・評価の実施によって内部質保証を徹底する。



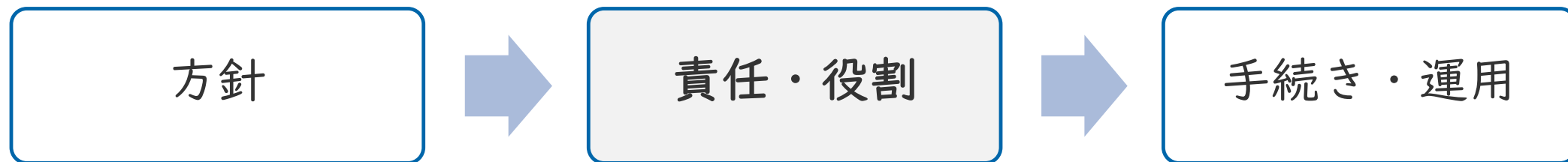
広島市立大学「内部質保証の方針」

広島市立大学「内部質保証の方針」



国際平和文化都市を標榜する広島市の「知」の拠点、「市民と共生し、市民の誇りとなる大学」となることを目指して、広島市立大学の教育、研究、社会貢献について、建学の基本理念や教育研究上の目的等を念頭に置き、質の向上を図るとともに、適切な水準にあることを自らの責任で明示する内部質保証の取組を恒常的に推進する。

広島市立大学「内部質保証の方針」



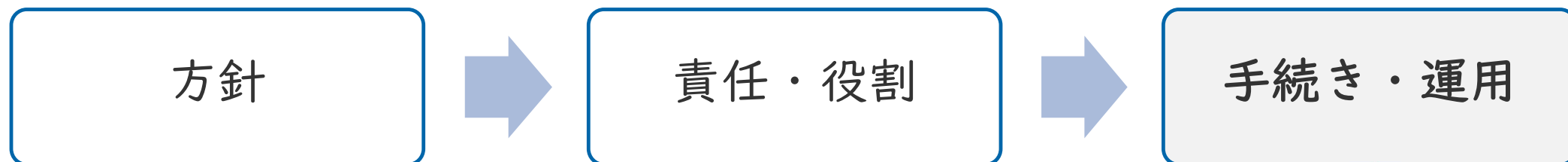
- (1) 全学的な内部質保証は、理事長（学長）の責任の下、内部質保証委員会が主体となり、執行部(*1)とすべての構成員が連携・協力し、着実に推進する。
- (2) 学部・研究科の内部質保証は、学部長・研究科長の責任の下、内部質保証に責任を負う組織(*2)が主体となり、学部・研究科執行部(*3)またはそれに準ずる役割を担う者とすべての構成員が連携・協力し、着実に推進する。
- (3) 内部質保証を推進するため、組織間の連携・協力を適時適切に行う。 説明用に一部を抜粋

*1 執行部は、理事長・学長、理事・副学長、理事・事務局長、事務局次長を指す。

*2 内部質保証に責任を負う組織とは、学部・研究科の場合は、それぞれが定める内部質保証に責任を負う組織を表す。

*3 学部・研究科執行部は、組織により異なる場合があるが、概ね学部長（研究科長）、副学部長（副研究科長）等を指す。

広島市立大学「内部質保証の方針」



- (1) 学部・研究科・その他部局及び全学的な内部質保証は、いずれも『内部質保証の手続き（イメージ）』の枠組みを基軸としつつ、柔軟に推進する。
- (2) 学部・研究科及び全学的な教育の内部質保証は、『「教育の内部質保証」全体像』の枠組みを基軸としつつ、柔軟に推進する。
- (3) 内部質保証システムについて、定期的に検証・改善を行う。

内部質保証を推進する全学的組織

内部保証委員会

- 役割：自己評価、中期目標、中期計画及び年度計画、法人及び大学運営に係る企画、内部質保証に関する事項の審議及び実施
- 委員構成：理事長・学長、学内理事、副理事（内部質保証・IR担当）、部局長

内部保証委員会専門委員会

- 役割：教育の内部質保証の具体的取組を推進
- 委員構成：副理事（内部質保証・IR担当）、部局内部質保証推進組織の長もしくは副部局長、副理事（教育推進担当）、教学企画・質保証担当教員、IR担当教員

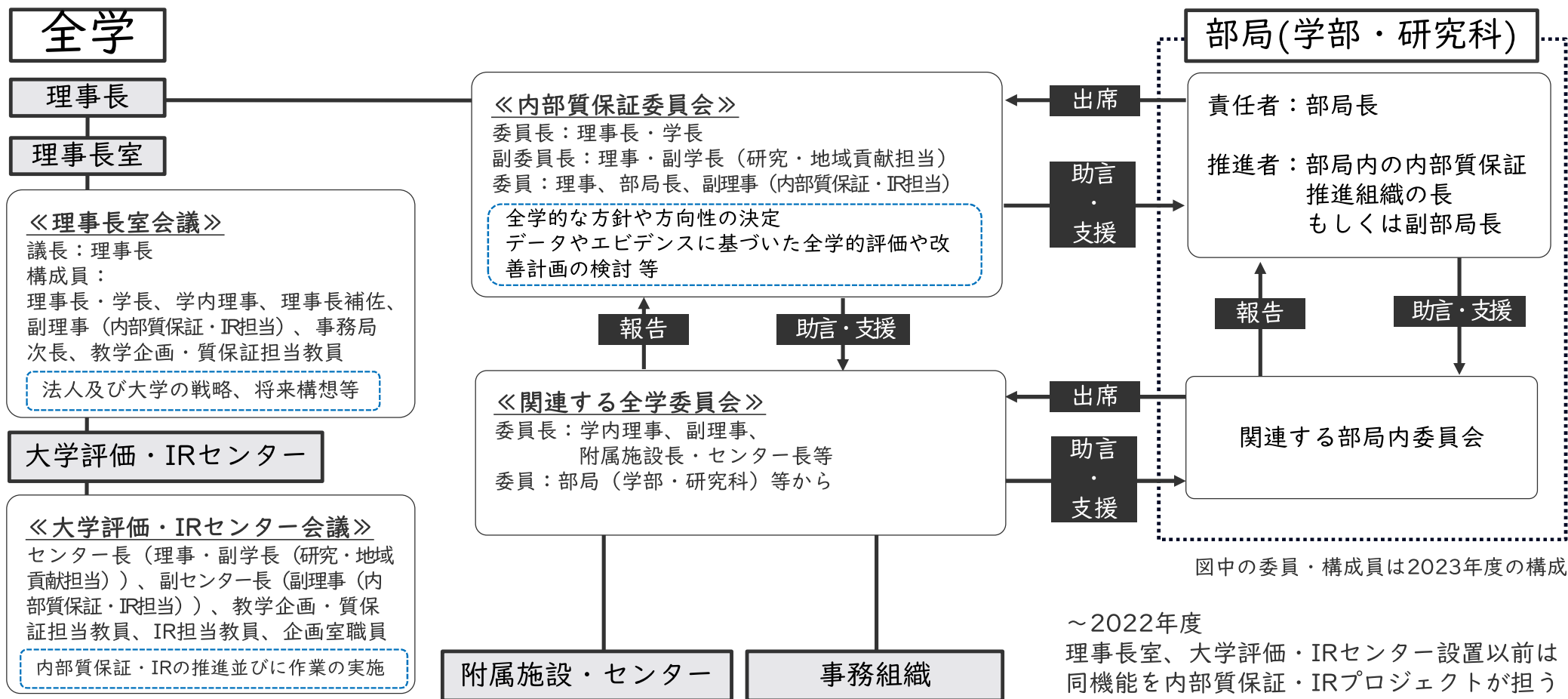
⇒ 2024年度より教育質保証委員会に改組

内部質保証・IRプロジェクト

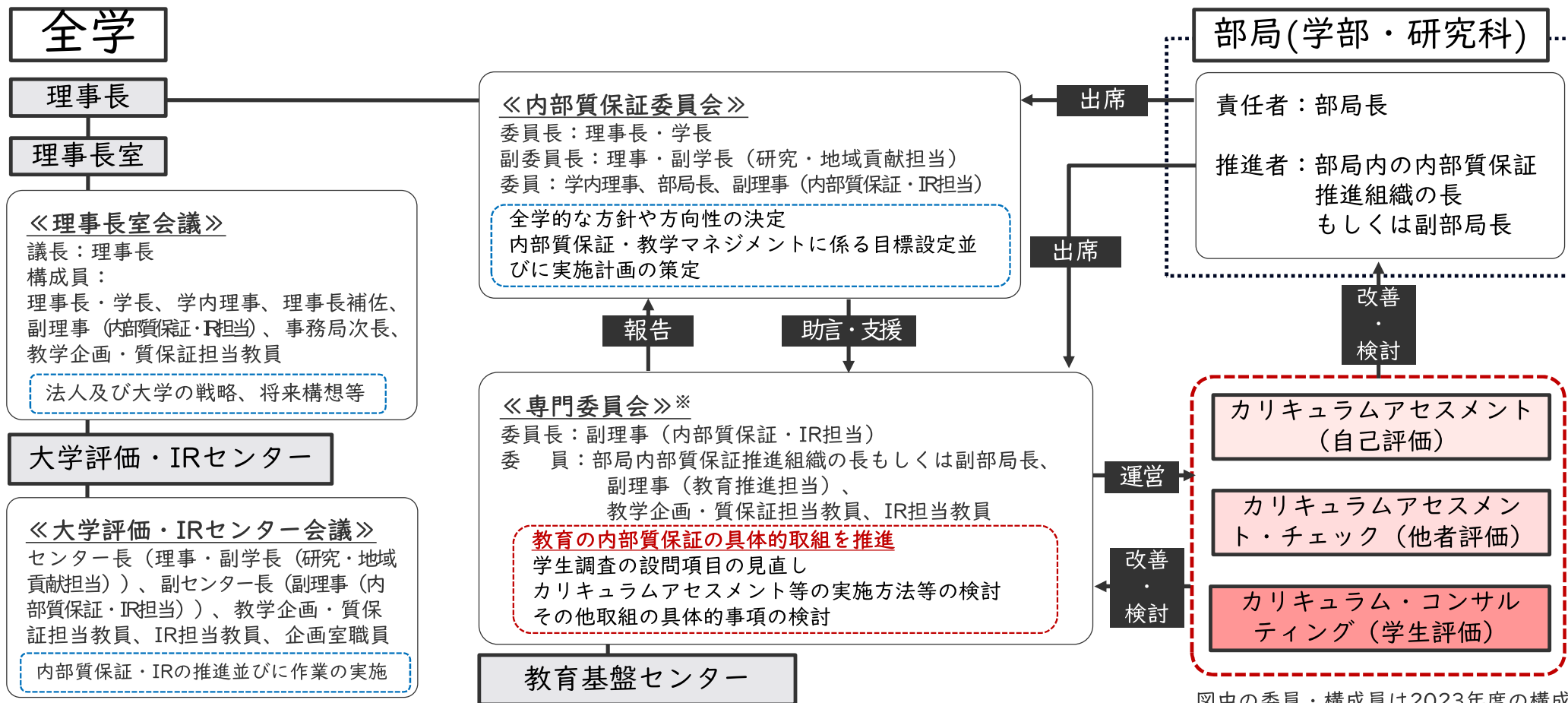
- 役割：企画立案や意思決定等に資するデータを組織的に収集・分析、内部質保証の進行管理等
- 委員構成：大学執行部、事務局次長、内部質保証・IR担当副理事（リーダー）、教学企画・IR担当教員（サブリーダー）、IR担当教員、担当職員

⇒ 2023年度より理事長室、大学評価・IRセンターがその役割を担う

内部質保証体制（全般）



内部質保証体制（教育）

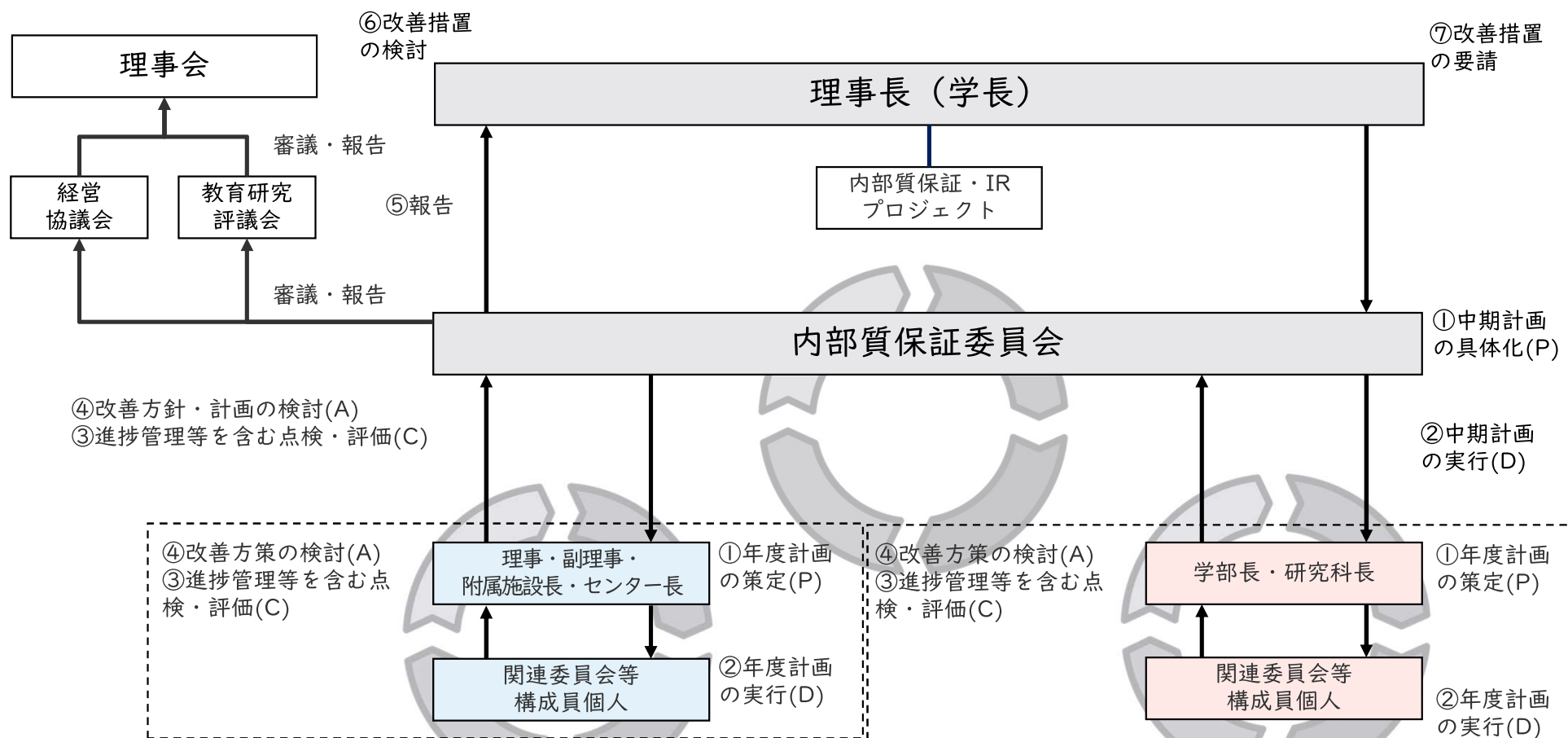


図中の委員・構成員は2023年度の構成

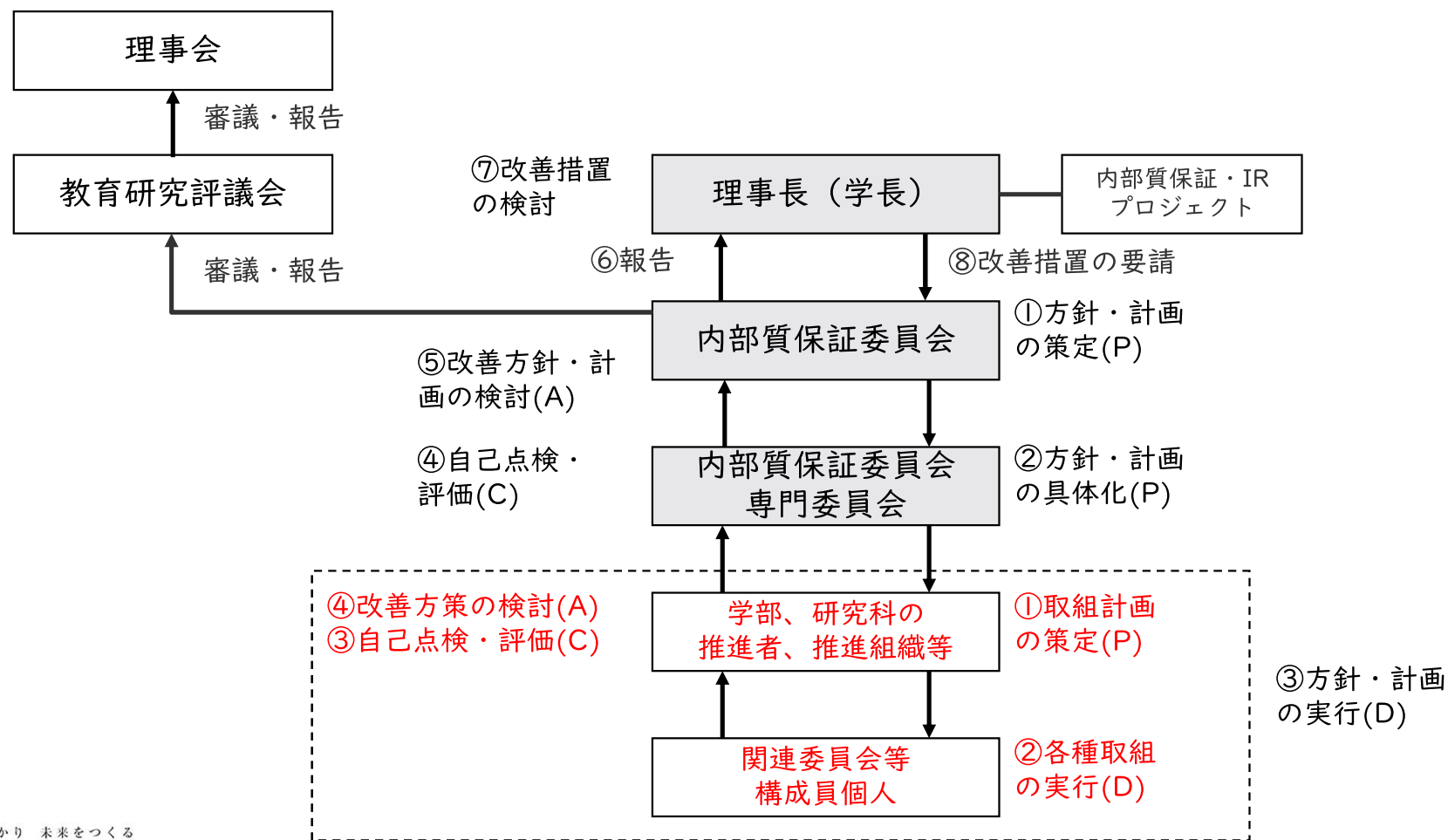
※2024年度から教育質保証委員会に改組

大学基準協会2024年度事例報告会 © 公立大学法人広島市立大学

中期計画における内部質保証の手続き

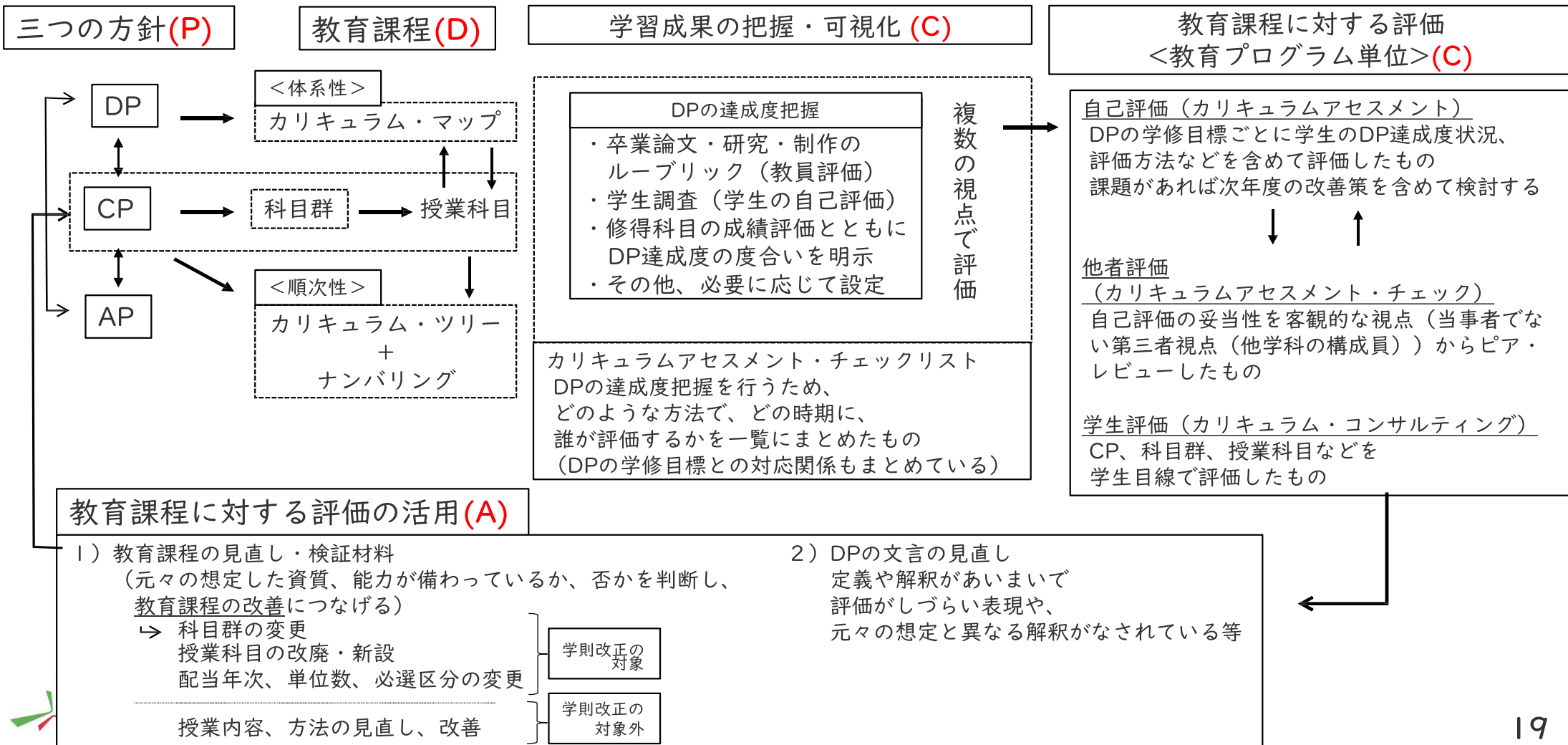


教育における内部質保証の手続き

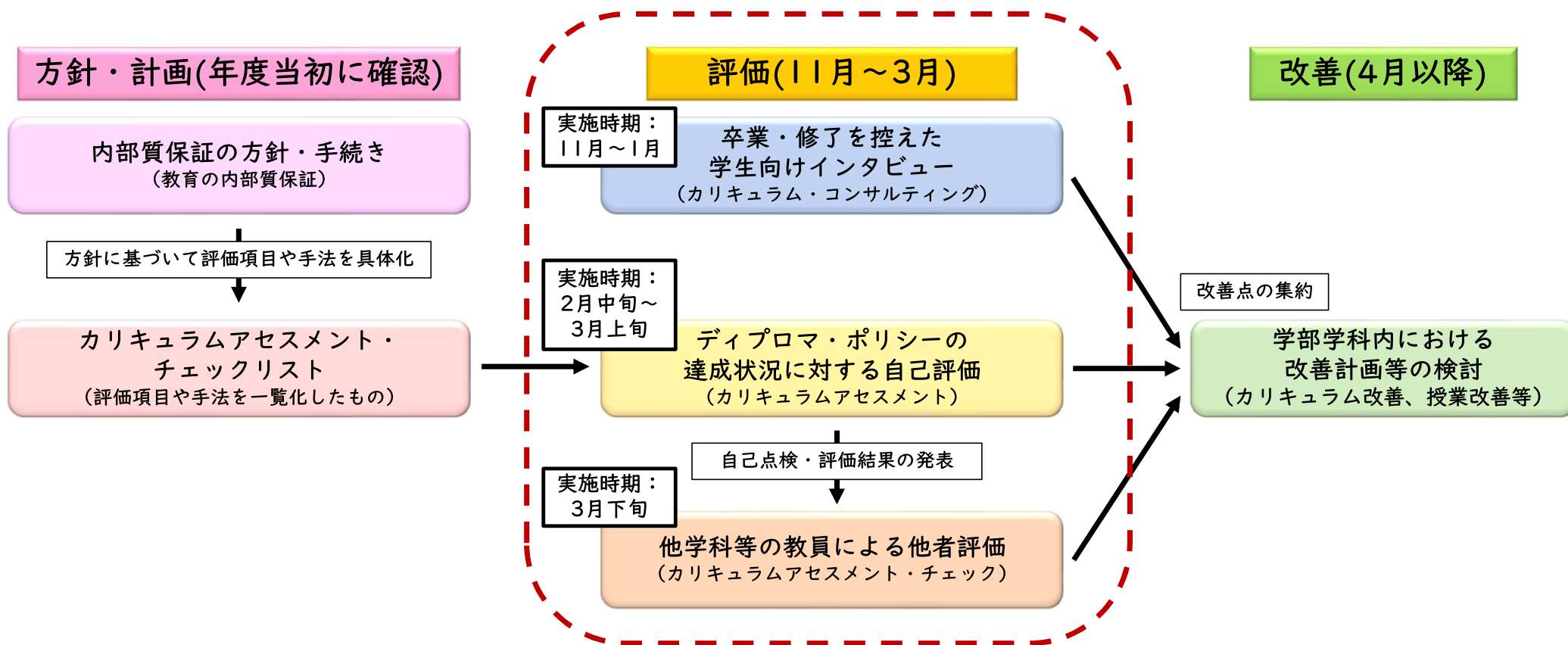


本学の特色ある取り組み事例

教育の内部質保証（全体像）



教育課程に対する評価



カリキュラム・コンサルティングの取組概要

カリキュラム・コンサルティングとは…

- 卒業予定者を対象に大学4年間の学びを振り返りながら、経験したカリキュラムへのコンサルティング（評価と助言）をお願いする取組

進め方

- 参加学生は4～6名のグループに分かれて、配布資料（入学年度の科目一覧）やシラバス等を参考に「よかった点」「改善したほうがよいと思う点」について個人でブレストしグループで集約する。
 - 一つの意見に対してグループで同意できる人の数を集計する。
 - 先生個人への誹謗中傷は避ける。
 - 「改善したほうがよいと思う点」は簡単な理由と、自分なりの改善方法を思いつく範囲で書いてもらう。
 - 発言をしやすいように所属学科教員は当日進行に関与しない。

説明資料：カリキュラム・コンサルティング個人ワーク

(1) ~ (4) の質問項目について、
よかった点を青色の付箋紙に書いてください。

- ・ **付箋紙**一枚につき、**ひとつの項目**を書いてください。
- ・ **ひとつの質問項目**につき、**一人3枚程度**書いてください。
- ・ **簡単な理由**も合わせて書いてください。

(2) ○○概論
制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

質問項目

- (1) 全学共通系科目、外国語系科目
- (2) 専門基礎科目、専門科目
- (3) オンライン授業 (2021・22年度)
- (4) 大学での学生生活

例) ○○実験では、レポートを丁寧に添削してくれたので、レポート作成能力がついた

例) ○○概論では、制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

説明資料：カリキュラム・コンサルティング個人ワーク

(1)～(4)の質問項目について、
改善したほうが良いと思う点を赤色の付箋紙に書いてください。

- ・付箋紙一枚につき、ひとつの項目を書いてください。
- ・ひとつの質問項目につき、一人3枚程度書いてください。
- ・簡単な理由も合わせて書いてください。
- ・改善したほうが良いと思う点に対する皆さんなりの解決策も書いてください。

(2) ○○概論
「○○概論」と
「○○論」の授業の
順だとわかりにくい。
なので、科目の受け
る順番を変えてはど
うか。

質問項目

- (1) 全学共通系科目、外国語系科目
- (2) 専門基礎科目、専門科目
- (3) オンライン授業(2021・22年度)
- (4) 大学での学生生活

「○○が悪い」だけではなく、「どうすれば良くなる」という観点で書いてください。

例) 「○○概論」と「○○論」の授業の順だとわかりにくい。なので、科目の受けの順番を変えてはどうか。など

説明資料:カリキュラム・コンサルティンググループワーク

1 グループニング

グループ内で話し合っ、同じ内容の付箋紙があれば重ねてまとめてください。違うと思うものは別々のままにします。

2 集計

まとめた付箋紙の内容をグループで共有して、同じ意見なら挙手してその数を集計してください。例えば、5人中3人が同意した場合、3/5と付箋紙の表に記入してください。

(2) ○○概論

制作した課題に対して、先生が丁寧にフィードバックをしてくれたため、次の制作のときに変えていくことができた

3/5

カリキュラム・コンサルティング実施の背景と目的

実施した背景

- 2019年度以降、学生調査（新入生、在学生（2・3年次生）、卒業予定者）の自由記述欄（大学に対する要望等）では、問題だと共通認識を持っている事項もあれば、教員、職員目線では気づくことができない、「はっ」とさせられるような問題等が記入されていることがあった。
- 顕在化していない問題や学生の実態を含めて学生の生の声を掬う機会が必要であること、1学年の学部生約430名のきめ細やかな少人数教育を強みとしていることから、学生の意見を聴取するカリキュラム・コンサルティングの導入を検討した。

実施した目的

- 学修者本位の教育実現に向けて学修者視点でカリキュラムに対する意見を聴取し、カリキュラムや授業科目の見直しに活かすことや、市大生の実態と教職員が思う市大生との乖離を少しでも縮めるような機会とすることを目指した。

カリキュラム・コンサルティング等の改善事例

具体的な改善事例

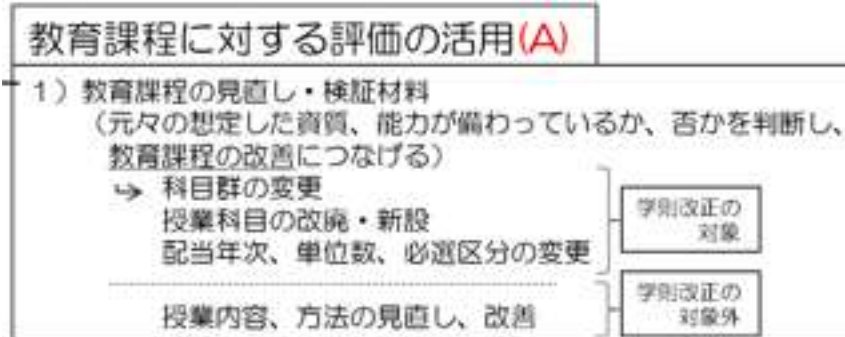
1. カリキュラムアセスメント（及びカリキュラムアセスメント・チェック）
 - ① 学部3年次から4年次の進級要件であるTOEICスコアを満たす語学力を養う英語科目のカリキュラムの見直しと進級要件の変更

2. カリキュラム・コンサルティング
 - ① 複数の選択科目で講義内容が重複している授業科目の把握
 - ② 重複する内容となる講義の必修化の検討
 - ③ 学習意欲を高めることを目的として習熟度別クラスの講義内容の差別化の検討
 - ④ 新カリキュラムの状況把握を行うためにカリキュラム・コンサルティングを卒業予定者（4年次）に限定せず実施する学部もある。

カリキュラム見直しに向けた活用と改善

活用と改善

- 【長期】カリキュラムの再編時まで蓄積し、改訂検討時に活用する。
- 【中期】配当年次や授業科目の一部見直し等の至急対応が必要なもの等は改訂。
- 【短期】学則での改正等が不要な授業内容、方法等に対する意見を参照し改善。



今後に向けて

今後に向けて

●教育以外の内部質保証システムの改善

- これまでは、教育の内部質保証体制の確立等を中心に取り組んでおり、教育以外の分野における質保証のプロセスの明確化する必要がある
- 理事長、理事長室を中心とした意思決定と内部質保証システムを中心とした点検評価・改善のプロセスを明確化する必要がある

●学生参画による質保証の強化

- カリキュラム・コンサルティングのさらなる活用
- 学生調査・アンケート内容のフィードバックと情報発信

今後に向けて(続き)

- I R 推進による内部保証推進と点検評価活動の効率化
 - － 統合データベース構築、データの自動・半自動収集、BIツールによる大学の状況の見える化
 - － 経営 I R に基づく教育以外の点検・評価、経営 I R による経営マネジメントの強化

ご清聴ありがとうございました

